

「早春の高尾山紀行 (6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私はキジョランの花をまだ見たことがない。ネットの画像で調べると、小さな白い花とわかった。ランといるのだから美しい花を想像するが、地味で目立たない花のように見える。



今回も開花した花はなかったが、つぼみは見つけることができた。ヘチマのおぼなのようなつぼみだ。



3号路ではよく野鳥にも出会える。出会わなくても声は聞こえる。この日も、シジュウカラ、ヤマガラ、コガラ、うるさいヒヨドリ、それに確かにウグイスの声も聞いた。嬉しい出会いもあった。上の写真は、3号路で一番深い沢を渡る橋の上で撮ったものだが、実は小さな野鳥が写っている。中央の斜めの枝(根かもしれない)が分岐しているあたりに、小さな茶色い鳥がとまっているのがおわかりだろうか？



これは「ミソサザイ」という野鳥だ。日本の野鳥の中では、「キクイタダキ」と並んで、最小の野鳥である。成鳥でも体重はわずか10g前後で、百円玉二個分ほどしかない。ミソサザイは谷筋の水に近い斜面を好み、このような場所の木の根元などに営巣する。繁殖期は5月頃なので、まだ「恋の季節」ではなさそうだが、私はその「さえずり」で存在に気付いた。体が小さい割には声は大きく、澄んだ美しい声で鳴く。小さな昆虫やクモ類を好んで食べるという。



この日は、もう一つの小さな野鳥「ヒガラ」にも出会えた。ヒガラも日本の野鳥では最小クラスで、カラ類の中では一番小さな野鳥だ。パッと見、シジュウカラに似ているが、ずっと小さく、警戒すると頭の上の羽(冠毛)がオウムのようにヒョイと立つので、簡単に見分けられる。上の写真でも少し冠毛が立っている。シジュウカラやコガラに比べると、やや稀な野鳥だ。